

地域交流センター活動報告書

平成 29 年度



愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業 「ホームカミングデー」	4
2. 看護実践研究セミナー	11
3. 思春期保健スキルアップ研修会	13
4. 高校生の生命科学体験プログラム えひめ高校生生体機能研究プログラム ー心拍と呼吸の関係ー	16
5. ブック&メディカルトーク	19
6. 地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成	20
7. 2017 年とべ町子育てフェスタ “とべキッズお仕事体験”	22
8. 2017 ゆめプロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験	24
9. リレー・フォー・ライフ 2017	26
III 調査研究	
1. 思春期教育に関する意識調査	29
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	31
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	36
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	38
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	41
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	45
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	60
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	61
VI 地域への施設開放状況	69
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	71
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	72
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	74
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	76

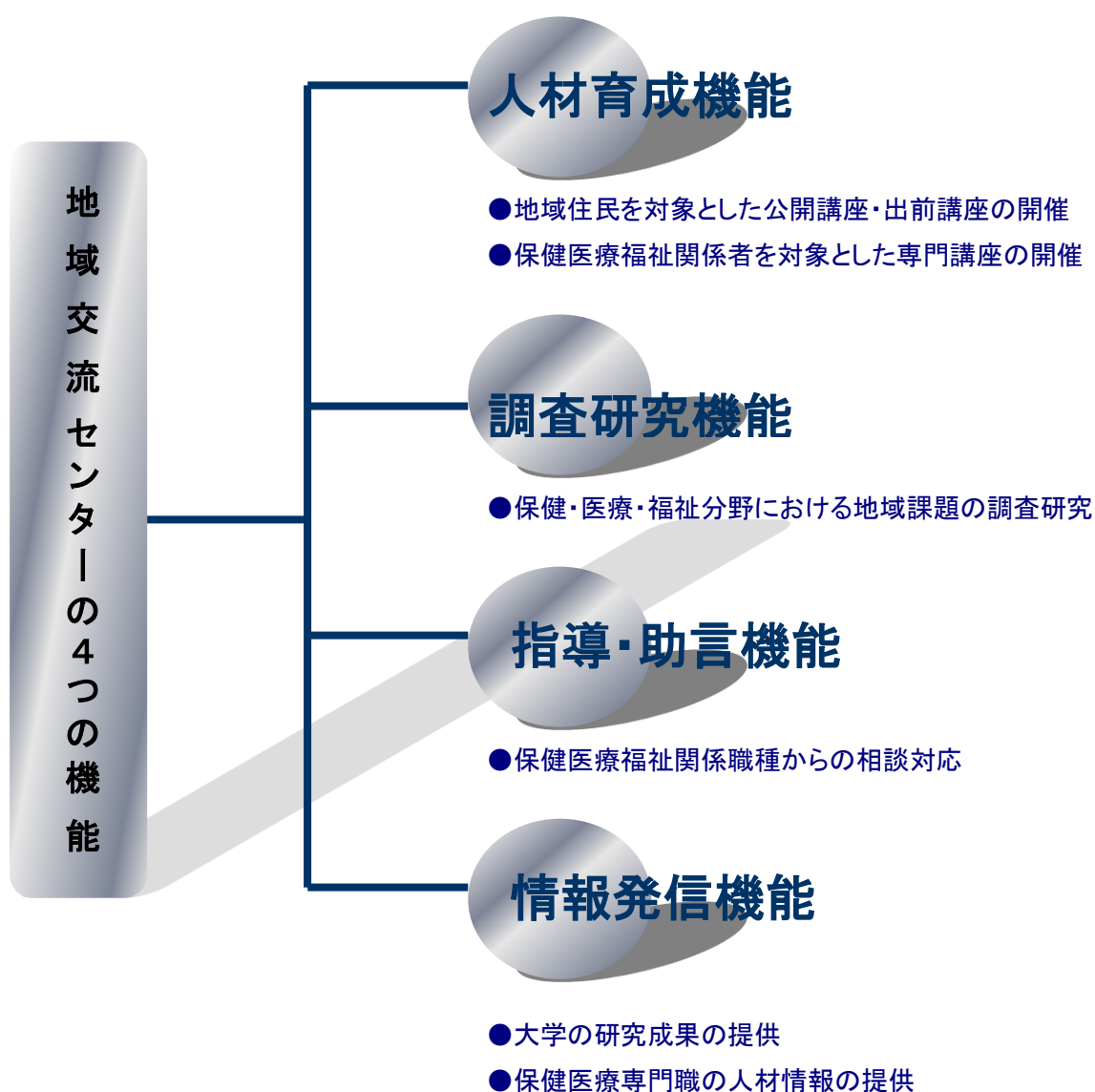
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2 地域交流センターの 4 つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 平成 29 年度第 7 回「ホームカミングデー」

(同窓会木蓮会との共催事業)

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体

本学同窓会（木蓮会）と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：中越講師（地域交流センター員）

実行委員：豊田センター長、青木准教授、野島准教授、西森助教（地域交流センター員）

協力教員：

松井講師、永井講師、森助教（看護師分野）

小嶋准教授、山本助教（助産師分野）

田中准教授、奥田講師（保健師分野）

野島准教授、岡村講師（臨床検査技師分野）

4) 事業内容

(1) 日時：平成 29 年 6 月 17 日（土）9：30～12：30

9：30～10：30 全体会・特別講演 10：45～12：30 分科会

(2) 場所：医技大キャンパス 116・117・216・217・218 講義室

(3) 参加者数 198 名(内訳：卒業生 68 名、在校生 110 名、教員 20 名)

(4) 実施内容

①全体会：学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院保健医療学研究科説明会

特別講演講師：山崎 誠 氏 愛媛県立中央病院 救命救急認定看護師

テーマ：「卒業生から後輩へのメッセージー私の歩んできた道ー」



開会挨拶
豊田地域交流センター長



中西学部長による
大学院保健医療学研究科
入学説明



高田美紀木蓮会副会長

講演要旨「卒業生から後輩へのメッセージー私の歩んできた道ー」

愛媛県立医療技術短期大学 5 期生で、現在、愛媛県立中央病院 HCU に勤務されている山崎誠さんから「卒業生から後輩へのメッセージ」と題してご講演をいただきました。山崎さんは、救命救急認定看護師の資格を取られた後、平成 29 年 2 月から開始されたドクターヘリの搭乗ナースとしてご活躍されています。当日は、ドクターヘリのユニフォームでご登壇いただきました。凛々しいユニフォーム姿にあこがれを抱いた学生も多かったのではないのでしょうか。

講演では、学生時代の思い出や、新人時代のエピソード、認定看護師への強い信念を語っていただきました。また、ドクターヘリの内部の写真や活動の実際など普段の病院や病棟では見ることができない映像を見せていただきました。急性期看護、救命救急看護に興味を持った人もいたようでした。認定看護師というスペシャリストとして日々活動される先輩の姿は、卒業したばかりの人や在校生にとって、とても勇気づけられるお話であったと思います。この講演会が、皆さんの理想とする医療職を目指して成長する糧になればと思います。



②分科会

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	看護師としての成長の道 標 みちしるべ	南棟 117	富永千尋さん (松山赤十字病院 勤務)
助産師	女性と家族に寄り添う助産師を目指して	南棟 216	岡澤志帆さん (四国中央病院 勤務)
保健師	みんなの健康応援団 ～赤ちゃんからお年寄りまで～	南棟 217	橋本佳奈さん (松山市保健所) 岡崎祐香さん (西条市役所)
臨床検査技師	大学病院における検査技師の業務	南棟 218	本田孝嗣さん (愛媛大学医学附属病院)

分科会報告

「看護師分科会」

参加者 卒業生 49 名、在校生 30 名、教員 7 名 合計 86 名

看護師分科会のテーマは「看護師としての成長の道標」で、松山赤十字病院勤務の富永千尋さんをゲストスピーカーに迎えた。もう 1 名、伊予病院勤務の大塚明日香さんをゲストスピーカーとして迎える予定であったが、日付の認識間違いがあり当日キャンセルとなった。そのため、全体会の講師である愛媛県立中央病院勤務の山崎誠さんに対する質問コーナーを急遽実施した。



富永さんは、学生時代の思い出から病院に就職後の経験や活動について話をされた。就職後は、日々自己研鑽が必要なようです。また、山崎さんへの質問コーナーでは、国家試験対策から就職後の勤務とプライベートとの切り替えなどについての幅広く質問があり、全体会では聴けなかった内容を聴ける機会となった。



富永さんと山崎さんの話が終わったあと、2 人にもグループに入っていていただいて茶話会を行った。お菓子を食べながら、在校生が卒業生に自分の興味のある病院や地域での仕事の様子について質問したり、卒業生同士が他の施設の同級生と近況を語り合ったりしていた。話が弾み、活発な情報交換が行われていた。

「助産師分科会」

参加者 卒業生 4 名、在校生 29 名、教員 6 名 合計 39 名

野上氏から助産師として 20 年を振り返っての思いと助産師を志している学生への激励のお言葉をいただいた。



岡澤氏は助産師として 5 年目を迎え、やりがいや新人時代の苦労話を交えて、四国中央病院の助産師外来での取り組みについて話された。妊婦に保健指導を行っても行動変容がみられず、ご自分の指導力に悩んでいる時、先輩に「人の行動は早々に変わらない。ありのままの妊婦を受け止めれば良い」とアドバイスを受け気が楽になった。先輩や多くの妊産褥婦に支えられ今の自分がいるとおっしゃった事が印象的だった。



また、四中助産学実習で感じた職場の雰囲気良かったことや実家から近かったので就職先を選択したこと、在学生には自分の目指す助産師像を実習先で見つけると良いなど、学生へたくさんのアドバイスをいただいた。さらに、施設自作の「誕生」の DVD が心暖まるもので感動した。

在校生は専攻科学生に対して、実習や授業や職場のことを聞こうというオーラ満載で盛り上がっていた。アンケートには「自分の将来について考えさせられた。」「参考になった。1 年生の時から参加しておけばよかった。」「1・2 年生は強制でも良いのでは」という意見もあった。楽しくかつ第一線でご活躍なさっている諸先輩方の話には重みがあり、学生は有意義な時間を過ごしたようだった。



託児所の様子

「保健師分科会」

参加者 卒業生 8 名、在校生 28 名、教員 4 名 合計 40 名

保健師分科会では、行政保健師として採用 4 年目を迎えた卒業生 2 名に活動の歩みを語っていただきました。



「研究発表をすることで一つの事業を丁寧に振り返り PDCA サイクルを活用することの意義がわかりました。保健師だからこそできた経験や出会いがたくさんあります。」
橋本佳奈さん（松山市保健所）

「保健センターでは、健康づくり推進員活動を通じて住民とともに健康づくりを経験しました。主役は住民さん。本人が『気づく』と行動につながる。周囲のサポートがあれば、継続につながります。」

岡崎佑香さん（西条市役所）



グループに分かれた交流会では、仕事内容や就職活動についての話題で盛り上がりました。

「臨床検査技師分野」

参加者 卒業生 7 名、在校生 24 名、教員 4 名 計 35 名



本田貴嗣さん



講演風景

本田さんには、ある意味で一般の総合病院とは異なる教育・研究機関である大学病院の検査室での業務について、具体的に語っていただいた。臨床検査の現場では年々、新しい技術が導入されて、検査法や測定機器は著しく進歩しているため、日常の検査業務のほかに意欲的に検査法の開発や改良などの研究課題に取り組んでいること、さらに検査室に特化した国際規格 ISO15189 を取得した事など、卒業生にとっても新鮮な話であったのではないだろうか。在校生も、講演後のその後の卒業生を囲んで、和気藹々と話を進めていく中で、大学病院だけでなく様々な施設環境での日常業務のことなど質問をし、臨床検査技師という職業について、より具体的に理解を深めることが出来たのではないだろうか。



熱心に聞き入る卒業生と在校生達



講演後卒業生を囲んで

(5) 参加者の反応

① 参加者アンケートの結果

情報源・・・卒業生①案内文書②ロコミ③チラシ
在校生①チラシ②教員からのすすめ
の順で多く回答があった。

講演・・・「とても良かった」77.5%、「良かった」20.2%と参加者のほとんどが満足された内容であった。

分科会・・・「先輩・卒業生のお話が聞けてとても楽しかった」、「業務の具体的なイメージができて良かった」、「卒業後の進路選択の参考になった」、「リフレッシュできた」、「母校に戻れてよかった。安心感があった。」、「後輩と交流することで初心に戻れた」等よい評価であった。

その他意見：講演会や分科会の講演内容について、卒業生のニーズを反映したものを検討してほしい

5) 評価と課題

(1) ねらい・成果

卒業生にとって、旧交をあたため、在校生と交流するとともに、在校生や教員との交流によりリフレッシュし、新たな気持ちで仕事に向き合えるきっかけになっていると評価している。在校生にとっては、卒業後の進路選択の参考となる等評価であった。

(2) 広報戦略

次年度も卒後 1・2 年生を対象に、職場上司と本人に案内文書を送付する。木蓮会と連携し、同窓会誌から申し込みができるシステムを次年度も継続する。本学在校生は、ホームメーカーを使用せず、教員が直接、学生の参加を募る。

(3) 運営・開催日程

次年度は開学記念日に近い 6 月 23 日（土）を予定する。特別講演は、卒業生で活躍されている人に依頼する。今年度から分科会の時間をより多く確保するために、開催時間を 30 分早めたことにより会の進行がスムーズにいったため、次年度も 9:30 開始とする。次年度も木蓮会と共催、木蓮会総会との同時開催とする。

2. 看護実践セミナー

1) 概要

本企画は、愛媛県内において看護の臨床や教育現場で看護に関わっている看護職などを対象に、講師を招き、腰痛対策指針について学ぶ機会とする。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学

3) 組織（プロジェクトメンバー）

地域交流センター員、看護学科教員

4) 事業内容

テーマ：「医療・介護の腰痛対策の進め方」

(1) 日時：平成 29 年 12 月 2 日（土）13：00～16：00

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室

(3) 参加者数：総数 66 名

(4) 実施者と講演内容：

実施者 滋賀医大社会医学講座（衛生学） 准教授 埴田和史氏

講演内容 改定された腰痛予防対策指針を看護師および看護教員はどう読むべきか



(5) 参加者の反応（アンケート結果）

アンケート回収率：66 名中 52 名から回答を得た（回収率 79%）。

職種：看護職 10、看護教員 3、リハビリテーション関係者 7、介護等福祉関係者 24、
行政関係者 4、その他 4

講演に対する質問・感想：

<質問>

技術教育に関する質問や臨床現場での実践に関する質問など多数寄せられ、埴田准教授よりご回答いただいた。

<感想>

- ・ ダントールはすぐ作成しようと思う。
- ・ ノーリフトの講習会でこの講演を知り、詳しく知ることができ、よかった。

- ・ スライディングボードを使う手間がかかるといわれ、施設ではなかなかノーリフトが定着しづらい。
- ・ 業務改善をどう提案するか検討している。
- ・ 腰痛対策の取り組みについて現状がわかった。
- ・ 患者移送に対する知識が少なかったということに気づかされた。
- ・ 利用し始めた腰痛予防の補助具を途中で使用しなくなる現状にあったが、慣れるようになるまで使い続けることで、みんなの意識を変えていこうと思う。
- ・ 大学の講義でリフト、スタンディングマシーン、スライディングシート・ボードの使用を学んだが、実際の臨床ではまだまだ浸透しておらず、人力でなんとか持ち上げることが当たり前になっている。
- ・ 産業保健の場面でも使える知識が多くあり、大変役に立った。

所属機関の職員の腰痛予防対策：

- ・ ノーリフト研修に参加し、スライディングボード、スライディングシート、リフトなどを使用している。
- ・ すべてのベッドを3モーター付きとする。
- ・ 始業前の腰痛予防体操の考案、実施
- ・ 残存機能を生かし、全て抱えないよう指導
- ・ ギャッジアップで自分に合わせるように指導
- ・ ボディメカニクスについての講習
- ・ コルセット使用を促している。費用の負担
- ・ 正しい姿勢に取り組んでいる。
- ・ 腰痛アンケートを行い、現状を把握し、対策を立てている。

講演開催をどのように知ったか（複数回答含む）：

本学ホームページ 3、講演のチラシ 17、職場から勧められた 9、知人から勧められた 18、その他 9

5) 課題と評価

周知の方法について：

セミナーの周知は開催日の2ヶ月前から大学HPおよび学生の実習先、県内の就職先、看護大学、専門学校へ文書で行った。また、文書送付後には、学生の実習先等で再度呼びかけを行った。アンケート結果からも、講演のチラシや知人からの勧めによるものが多く、チラシの配布といった文書での周知に加えて、口頭での周知が多くの方の参加につながったと考える。

セミナーについて：

今回のセミナーは、改訂された腰痛予防対策指針についての講演であり、看護職やリハビリテーション関係者、介護等福祉関係者、行政関係者といった、さまざまな専門職種が参加された。今回の参加者は、腰痛予防対策に関心の高い方が多く、腰痛予防対策の現状を知り、各所属機関での腰痛予防対策への取り組みと最新の知見を得られ、セミナー参加者の満足度は高かったようである。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子供たちのコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点にそって他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭、保健主事、思春期保健に関わる保健師、助産師、看護師等

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

メンバー・協力者

愛媛県立医療技術大学：豊田ゆかり、井上明子、金澤知典、入野了士

愛媛県中予保健所健康増進課：荒木周一郎課長、榊原彰子、稲田美香、仁井田美菜
住田江里子

砥部町保健センター：麓由香里 四国中央保健所：森眞弓

八幡浜保健所：徳弘美智江 福祉総合支援センター：宇都宮美和

4) 事業内容

(1) 日時 平成 29 年 8 月 29 日 (火) 13:00～16:00

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 116.117 教室

(3) 参加者数 78 名

(参加者内訳)養護教諭：28、保健師：16、助産師：7、看護師：1、教諭：3、学生：1、
児童福祉士：6、社会福祉士：1、保育士：1、心理判定員：1、その他：13

(4) 実施者と実施内容

① 性教育パッケージを使用した模擬授業および思春期教室実践報告

・SNS 編模擬授業 金澤知典 愛媛県立医療技術大学

・砥部中学校 3 年生対象思春期教室の実践報告 養護教諭：中野典子、教諭：三好裕士

・幼児期保護者に向けた性教育の実践報告 中越利佳 愛媛県立医療技術大学

・初任者教員研修での性教育パッケージ教材の活用例報告 菊池準子

② グループワーク

性教育パッケージの今後の活用方法、思春期教室実施に向けた情報交換

(5) 参加者の反応（アンケート自由記載より抜粋）

- ・内容也多岐にわたり、それぞれが濃く参考になった。すごく良い内容だった。
- ・パッケージの興味のある所や模擬授業を通じて思春期教室について深く考えることができた。参考にして自校の思春期教室に生かしたい。
- ・内容がわかりやすく使いやすくなっているようです。現場で実際に使わないともったいないと思う。
- ・保健指導の大切な準備である教具が性教育パッケージに入っていることを知った。活用していきたい。
- ・グループワークも職種の違う方々と話せて、皆、子どもたちの健康・幸せを願っていることを嬉しく心強く感じた。
- ・性教育という面だけでなく、相手に伝えるためにという点でも学びになった。
- ・性行為を既に行っている中高生にとっては、少しズレてしまうような気がするが、でも大切なポイントを掴んでいると思う。
- ・LGBTの方にとっては、性行為＝子どもができるではないので、コミュニケーションの側面についても言及できればと思う。

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成25年度から継続開催し、今回で第7回目を終了した。今年度は、過去最多の参加者数で、研修会に対する評価も高く、参加者の性教育に対する熱意を感じる研修会となった。本研修会で初めて性教育パッケージを知ったという参加者も多く、本研修会が性教育パッケージの認知に有効であった。次年度も性教育パッケージを活用した実践報告を中心に思春期保健スキルアップ研修会を開催していく予定である。また、教材を配布した学校、関係機関には、性教育パッケージの認知、利用状況などを調査し、教材の評価を行う予定である。

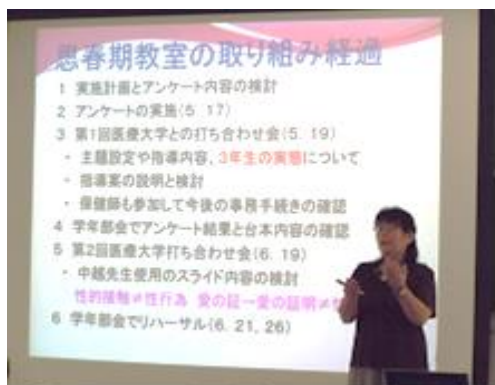


開会のあいさつ：豊田地域交流センター長



SNS 編模擬授業：金澤講師

《砥部中学校思春期教室実践報告》



中野典子先生



三好裕士先生

《幼児期保護者の性教育実践報告》



愛媛県立医療技術大学 中越講師

《性教育における性教育パッケージ活用について》



菊池準子 先生



活発なグループワークと意見交換



閉会挨拶

中予保健所健康増進課 荒木課長

4. 高校生の生命科学体験プログラムえひめ高校生生体機能研究プログラム ー心拍と呼吸の関係ー

1) 概要

(1) 目的

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が深いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。また、これまで平成 22 年度～26 年度まで実施されていた「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」(生物コース：講師は本学の教員が努めてきた)は毎回定員の数倍と言う高いニーズがあった。事業終了後、生物担当の高校教員の要望もあり平成 27 年度から本学主催でこの事業を実施している。本年度も、高校生の知的探究心に応えるため、昨年度は「ヒトの感覚情報の伝導と処理」というヒトを対象とした実験を行う内容で実施した。本年度は「心拍と呼吸の関係」とし、ヒトを対象とした実験を行い、対照として気胸マウスを用いた実験を行う内容とした。

2) 実施主体 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

(1) 講師 岡村法宜 講師 野島一雄 准教授(地域交流センター員)

(2) 学生ボランティア 臨床検査学科 4 名

3) 事業内容

(1) 日 時

実 験：平成 29 年 8 月 9 日(水) 8 月 10 日(木) 9:30～16:00

発表会：平成 29 年 8 月 26 日(土) 13:00～15:00

(2) 場 所

本学北棟 365 講義室 460 医用工学実習室 南棟 216 講義室

(3) 参加者

愛媛県立内高等学校生徒 12 名(参加校 4 校) 教員 2 名

4) 実施内容

8 月 9 日～10 日

(1) 開会式

開会の挨拶 及びスケジュール・注意事項 野島一雄

(2) 講義

① 動物実験に関する教育訓練 岡村法宜

② 各実習のねらい 岡村法宜

(3) 実習

① ラットの解剖(腹胸部・頭部)

② 「心拍と呼吸の関係」ヒトでの実験

③ マウスを用いたモデル実験

(4) 発表会についての注意事項

(5) 実験動物追悼式

8月26日

- (1) 発表会（パワーポイントを用いて） 1校20分（発表15分 質疑応答5分）
(2) 修了証 伝達



動物実験に関する教育訓練



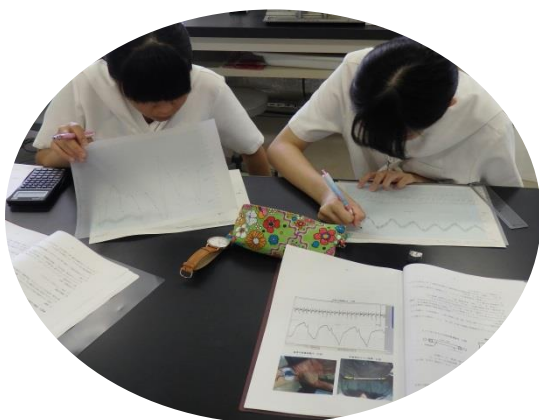
ラットの解剖



マウスの「心拍と呼吸の変化」の記録



ヒトの「心拍と呼吸の変化」の記録



データ整理



発表の様子



動物慰霊碑の前で

5) 評価と課題

昨年と同様に募集定員は、一つの実験を深く掘り下げていくために1班3名とし、1～4班の計12名（4校）とした。今回も応募開始日で募集定員に達した。今回は応募開始日より前にも多くの高校から問い合わせがあった。毎回、多くの高校生の応募に応えることが出来ない現状を考えると、実施時期・実験内容、教員の負担増などの問題点もあるが、複数回の実施などの方策を考えていく必要がある。今回は、実験終了から約2週間後に発表会を開催した。終了後に自由記載で生徒及び引率教員に感想等を書いてもらった。一つの実験でもいろいろな考え方ができ、お互い刺激になった、多くの高校生に体験してもらいたいと記述されていた。今後も実施していく予定であるが、昨年に引き続き二年続けて参加の高校があったので、来年度は、選抜方法の検討が必要かと考える。さらに、実施回数については、教員及びボランティア学生の負担を考えると、2回が限度かと思われる。実施時期についても、夏・冬・春等の長期休暇中、あるいは同一週に二回実施する等、方法についても検討していく。実施時期だけでなく、毎年申し込み開始と同時に定員が埋まること、二年続けて参加する高校があること、などから参加校の選抜方法についても検討する必要がある。

6) 成果の発表

今回初めて、実験の終了後（約2週間）に再び各校に集ってもらい発表会を行った。パワーポイントを用いて各校20分（発表15分 質疑応答5分）の時間で発表してもらった。4校それぞれ違った観点からの切り口で考察しており、教員の質問にも的確に答え、活発な討論ができた。

5. ブック&メディカルトーク

1) 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員による医療（看護）に関する図書の紹介（ブックトーク）と、本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に看護・医療などを考える機会を提供する。

2) 実施主体

愛媛県立図書館と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) 事業内容

(1) 平成 29 年 11 月 14 日（火） 11：00～12：00

(2) 愛媛県立伊予高等学校

(3) 実施内容

メディカルトーク（臨床検査学科 教授 佐田榮司（40 分）

タイトル『免疫と病気の話』：

前半部分では、自然免疫と獲得免疫など免疫学一般の話と免疫の異常で起こる病気（リウマチ膠原病疾患）について発症の免疫学的メカニズムと最近の治療の進歩について紹介した。後半部分では、最近のブレイクスルーであるがんの免疫療法についてニボルマブを中心に、新たに治療の選択肢となった内容について紹介した。

聴講の高校生には興味を持って熱心に聞いていただき、感想、質問等も数点あり、楽しく講演をさせていただいた。

*「ブックトーク」（20 分）については、愛媛県立図書館の担当につき、省略する。

4) 評価と課題

本学教員によるメディカルトークは、医療関連職を目指す高校生にとって、専門的な医療・医学に関する講義を通して知識を深められる機会となるため、有意義な企画であると考えられる。生徒たちも興味を示し、関心を持って聞いていたので、今後も継続的に取り組む予定である。

6. 地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成

1) 趣旨

本学と西予市と連携して行う地域資源の乏しい農村型の地域包括支援システム構築のための、人材育成プログラム開発及び地域包括ケアシステム構築支援を 27 年度から 29 年度の 3 か年計画で実施する。本年度は 3 年目の最終年である。

2) 実施主体

愛媛県・愛媛県立医療技術大学・西予市

3) プロジェクトメンバー

大学、西予市関係部局、関係団体等の代表者で組織する。そのための組織として人材育成事業推進会議を行い、その部会として、人材育成事業部会と地域包括ケアシステム構築支援部会をおく。

4) 事業内容（詳細は平成 27 年度から 29 年度 人材育成プログラム開発報告書に記載）

- (1) 平成 28 年度に実施した「科学的根拠に基づくケア技術」をさらに発展させ、実践の場において具体的な技術展開が出来るための研修を実施する。
- (2) 大学教員による人材育成から、地域で活動している専門職との協働による人材育成体制へと発展させることにより、地域のニーズに即した人材育成の仕組みの構築を指向する。
- (3) 事業を通して開発した教育用教材を使用して研修を行い、教材の有効性を検証することにより、OJT 等の人材育成に効果的に活用できる教材を作成する。

以下、活動結果を表に示す。

平成 29 年度活動結果

	人材育成事業				人材育成 研修会 実施 ワーキング	人材育成 事業部会	地域包括 ケアシステム 構築支援 部会	人材育成 プログラム 開発会議 【親会議】
	研修会実施	担当講師 * 黒: 大学教員 * 青: 西予市等の 専門職	日程	教材作成				
4月								第1回 5/11
5月						第1回 5/2	第1回 5/2	
6月				*ケアDVD打合せ 6/15 *リハビリDVD打合せ 6/20	6/13 6/27	第2回 6/15		
7月	第1回 「口から食べる」幸せを支援するために AM「食べる楽しみいつまでも～口腔機能を維持するために出来ること～」 PM「食べる楽しみいつまでも～安全に食べるために必要な知識と技術～」	・町見歯科診療所長 宇都宮歯科医師 ・八幡浜市立病院 清水認定看護師 梅林言語聴覚士	7/6 (木)	*ケアDVD 撮影 7/12,13 *リハビリ DVD撮影 7/31 8/2		第3回 7/25		
8月	第2回-Part I - 「職場内研修(OJT)指導者」育成研修 AM「職場内研修への誘い～職場内研修における指導・支援の方法～」 PM「拘縮予防・褥そう予防・腰痛予防を目指すホジショニング」	AM: 宮内 PM: 窪田 岡田・奥田 江崎	8/25 (金)		8/17			
9月	第3回 「"歩き続ける"を支えるためのフットケア」 AM～皮膚と爪のケア～ PM～足の機能を高めるリハビリテーション～	永井・奥田・江崎 ・野村病院 二宮認定看護師 松本看護師 ・伊予病院 兵頭理学療法士 他3名	9/26 (火)	ホジショニング DVDの検証 (OJT)	9/19	第4回 9/13		
10月	第2回-Part II - 「職場内研修(OJT)指導者」育成研修 「拘縮予防・褥そう予防・腰痛予防を目指すホジショニング」	窪田 青木・岡田・江崎	10/18 (水)		10/5 10/10			
11月				ホジショニングDVDの再編集		第5回 11/7	第2回 11/7	
12月	第4回 「こんな時どうする？」 高齢者に必要な観察技術と 急変時の対応	・西予市民病院 佐藤認定看護師 徳山看護師 西田看護師	12/4 (月)	*打合せ 12/12,20 *シナリオ検討 12/26				
1月				*ミーティング 1/19		第6回 1/16		第2回 1/16
2月				*練習・シナリオ 修正 2/5 *撮影 2/10				
3月	平成29年度 地域包括ケアを考える研修会 (実践活動報告・講演・西予市長からのメッセージ)	〈運営〉 宮内・豊田・鳥居 奥田・入野・永井	3/11 (日)	*修正 3/14			合同 会議 3/16	第3回 3/22

5) 地域包括ケアシステム構築支援会議の開催状況

旧町単位で1地区を選定、65歳以上の方に日常生活・興味関心に関する把握調査を実施した。また、その具体的活動として、3月11日の「地域包括ケアを考える研修会」にて、地域支えあい活動について3名から発表があった。

7. 2017年とべ町子育てフェスタ “とべキッズお仕事体験”

1) 概要

砥部町の子育て支援に関わる関係者と子ども・親など町民一人ひとり、および団体・企業が協力し、地域社会全体で、子育て・子育てを応援することを目的とする。“とべキッズお仕事体験”では、子どもたちに様々な職業を体験してもらい、働くことの喜びを感じ取ってほしいと企画・開催された。本年度は13のお仕事体験が実施された。

2) 実施主体

主催：NPO 法人とべ子育て支援団体 ぽっかぽか

3) 事業内容

(1) 日 時：平成29年6月25日（日） 13:30～16:30

(2) 場 所：砥部町中央公民館

(3) 参加者：保育所・幼稚園・小学校の子どもとその家族

(4) 実施者：愛媛県立医療技術大学地域交流センター（看護師ブース）

藤原紀世子 助教

(5) 記 録：地域交流センター員（野島一雄）

(6) 参加人数：基調講演 親子94組

お仕事体験 子ども135名（全体で）

(7) 実施内容

- ① 1回のお仕事体験は30分、休憩をはさみ3回実施した。
- ② 参加人数は23名（小学校1年生～4年生まで）
- ③ ナース服を着用し、講師（藤原）による「手洗いの大切さ」という内容でお仕事紹介を聞いた後、それぞれ体験して貰った。
- ④ 子どもたちがユニフォーム着用後、手洗いをして『手洗いチェッカー』を用いて、洗い残しがないかをチェック。その後、再度手洗いをしてどの部分に洗い残しが多いかを学習した。
- ⑤ 学生がそれぞれの子どもの前腕に包帯を巻きながら指導し、子どもたちも同様に、学生の前腕に包帯を巻く体験をした。

(8) 参加者の反応および今後の課題

子どもたちはユニフォームを着用し、母親と写真撮影をしていた。また、手洗いの方法や包帯の巻き方を真剣に聞き、楽しそうに実践していた。手洗いはただ洗うだけでなく手洗いチェッカーを使うことで洗い残しの証拠が目に見え、それが子どもたちにとっても楽しい体験となっていたようである。洗い残しを確認すると、再度手洗い場に行き、実に丁寧に手洗いを行っていた。手洗いシートをお土産に配布した。子どもたちは手洗い実施中も熱心に見ており、喜んで持って帰った。包帯法について、子どもたちは包帯を巻いてもらうことも喜び、家族に見せたり、写真を撮ったりして楽しんでた。また子どもは学生に対してだけではなく、母親にも巻いていた。そのこと

が母親にとって子どもの成長を感じる良い機会になったようであった。準備段階として畳の部屋を借りることができたので、子どもたちも長時間座って過ごすことができ、家族もゆったり座って見守ることができていた。机も低めなので、手洗いチェッカーの中の手を上から十分ゆとりを持ってみることもできていた。手洗いチェッカーはやはり部屋を暗くした方が見やすいので、その点でも和室は看護のみのブースであったことから自由に電気を消すことができ、非常に効果的であった。

今後の課題

白衣を選ぶ時、女子はピンク、男子はブルーになるようにしたが、あらかじめもらっていた名簿では男子か女子か判別できない名前があり、困った。そのため、次回からは名簿に性別を入れてもらうよう依頼する必要がある。



藤原助教によるお仕事紹介



包帯を巻いてみよう



ちゃんと手洗ってきたかな？

8. 2017 子どものゆめプロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験

1) 概要

難病や障害をもつ子どもと家族を支援する団体である NPO 法人ラ・ファミリエが、ファミリーハウスあいなどの啓蒙・広報活動の一環として、子ども達が将来社会の一員として育つことを願い、子ども達の将来の夢や仕事につながる医療関係情報を提供し、子ども達が主体となって参加し夢や仕事を考える機会となる事業を行った。また、健康教育や病気や障害についての相談の場となるような機会も提供した。

愛媛県立医療技術大学は、お仕事体験ブース（病院のお仕事体験）の内、助産師部門を担当した。

2) 実施主体

主 催：特定非営利活動法人ラ・ファミリエ

3) プロジェクトメンバー

助産学専攻科：中越利佳、伊藤美香、山本美由紀

学生ボランティア：4 名

4) 事業内容

(1) 日時：2018 年 3 月 21 日（日） 10：00～17：00

(2) 場所：エミフル MASAKI 1 階 グリーンコート

(3) 参加人数

助産師ブースには、312 名の子どもと保護者、家族の参加があり、大盛況であった。

(4) 実施者と実施内容

① 教 員（助産学専攻科）：中越利佳講師、伊藤美香助教、山本美由紀助教

ボランティア：学生 4 名（助産師ブース 4 名）

② 実施内容

・お仕事体験ブース（病院のお仕事体験；③を愛媛県立医療技術大学が担当）

① 医師：診察・超音波検査

② 看護師：血圧測定、聴診体験、包帯を巻く、など

③ 助産師：赤ちゃん抱っこ おむつ交換 寝衣交換、など新生児人形の抱っこやおむつ交換、寝衣交換を実施した。着替えでは、マジックテープで作成したボタンを使用した衣類などを用いて可能な限り子どもたちが実際に行え、達成感が得られるような体験とした。オムツ交換を体験した後の抱っこ体験では、どの子どもも達成感にあふれた表情を見せていた。看護ユニフォームを着用し、誇らしげに新生児人形を抱く我が子を写真に収める保護者の姿が多くみられた。子どもたちが実際に体験した後は、子どもとその家族が顔を見合わせて笑顔となり、家族のだんらんの時間ともなっている様子であった。

④ 臨床検査技師：マラリア原虫の標本、顕微鏡体験

⑤ 救急救命士：救急車・救命士の仕事 AED の利用方法、救急車展示

⑥ 聖カタリナ大学短期大学部保育学生イベント：子どもの遊び体験

- ⑦ 相談ブース：子どもの病気や障害の相談、就労に関する相談、小児慢性特定患者に関する相談

5) 評価と課題

担当者を決めていたことから、案内、受付、ユニフォーム着用、体験とスムーズに参加者を誘導することができた。312 名の子どものとその家族が訪れたことにより、大変慌ただしかった。教員やボランティア学生は、交代で休憩を取ってはいたが、10 時～17 時という長時間の対応はかなり負担であった。ボランティア参加者が、午前と午後で分担できるようにボランティア学生の人数を確保することが課題である。



9. リレー・フォー・ライフ 2017

1) 概要

がん患者・家族、支援者が集い 24 時間をともに過ごすことにより「がん」に関する正しい知識と「がん患者・家族」への理解を深め、地域社会全体でがんについて考える契機になることを目的とするリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 えひめのチャリティ活動に、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者と時間を共有する。

2) 実施主体

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 えひめ実行委員会

3) 参加メンバー

教職員 30 名

学生 49 名

4) 事業内容

(1) 日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）17：30～3 日（日）10：30

(2) 場所：城山公園 堀之内地区 ふれあい広場

(3) 参加者数：がん患者、家族、支援者、一般の方 約 2,513 名

(4) 実施内容：

①リレーウォーク

②学内結団式 平成 29 年 9 月 1 日（金）

5) 評価と課題

本事業は、平成 22 年から連続して 8 年目の開催となるがんについて考える機会となるイベントである。今年は、えひめ国体の時期と重ならないように 1 ヶ月ほど早い開催であった。内容は 2 部構成となり、1 部は講演会、2 部はリレーウォークであった。リレーウォークは短縮され 17 時間であったが、参加者はがんサバイバーをはじめ県内の医療関係機関が多く参加していた。学生 5 名は本部役員として、3 月から 9 月まで月 1 回本部実行委員会に参加し協力した。当日の学生ボランティアは 17 名であった。

日中は比較的過ごしやすい気温であったが、夜間は寒かったため、9 月はじめでも寝袋などの対策は必要である。



横断幕とフラッグを持って学生と教職員が一緒になってリレーを続けます。



ウォークの合間にテントで休憩をします。



夜になって、ルミナリエに点灯され、セレモニーが行われました。



チーム紹介があります。



ラジオ体操で身体を柔軟にします。



朝焼けがきれいな2日目です。



リレー後の記念写真です。

Ⅲ 調査研究

1. 思春期教育に関する意識調査

1) 趣旨または概要

(1) 目的

本学地域交流センターでは、平成 21 年度に作成した小・中学生用性教育教材 CD を改編し、平成 29 年度に性教育パッケージとして本学 HP から WEB 配信を行った。本研究では、改編した性教育パッケージの内容、活用状況を WEB 上にてアンケート調査し、教材の評価を行うことを目的として実施した。

(2) 対象者

性教育パッケージ教材を配布した愛媛県内の小中学校、中予地域の高等学校の養護教諭、保健指導主事、保健所保健師、中予地区の市町保健センター保健師、医療施設の看護職者。

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

メンバー 愛媛県立医療技術大学 豊田ゆかり、井上明子、金澤知典

愛媛県中予保健所健康増進課

難病・母子保健係：出森美和 榊原彰子

感染症対策係： 稲田美香 仁井田美菜

4) 研究方法

性教育パッケージを配信し、パスワードを配布した各学校、施設、個人あてに WEB 質問紙調査票のパスワードを配布し、インターネット調査（モンキーサーベイ）を実施。なお、本研究の実施にあたり、本学研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号 17-016）。

5) 結果・評価

調査期間は平成 30 年 3 月 31 日までであり、現在、調査期間中である。調査結果を分析し、平成 30 年度に関連学会にて公表予定である。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
中西純子	愛媛県保健福祉部生きがい推進局長寿介護課&障害福祉課	平成 27 年度介護職員等によるたんの吸引等のための研修実施委員会(特定の者及び不特定の者)において、研修の企画、準備、運営、実施 試験問題の作成、実施、合否判定に携わった。	県内の介護職員
野本百合子	愛媛県立病院	平成 28 年度県立病院看護職員合同研修 県立中央病院に所属する 4 病院教育担当者から依頼を受け、主に県立 4 病院の就職後 3 年目に該当する看護職員を対象とする「看護過程(基礎Ⅲ)」の研修企画への助言及び講義を実施するとともに、グループワークへの助言などを行った。	愛媛県立 4 病院に所属する看護職員(研修企画者及び主に 3 年目看護職員)
徳永なみじ	愛媛県立南宇和病院	県立南宇和病院看護部から、看護研究指導について相談を受け、主研究者と研究指導者への助言や研究計画書への指導方法について提案した。遠方であることから、年 3 回の指導とし、初回は南宇和病院での面接で、研究の目的と方向性について助言を行った。2、3 回はメールでの計画書への指導とした。	愛媛県立南宇和病院看護師
相原ひろみ	十全総合病院看護部	看護研究の研修について相談を受け、年間計画の立案・研修内容の企画・研修の講師を引き受けて実施した。平成 26 年度から計画の相談を開始し、平成 27 年度まで 2 年かけて、看護研究の指導にあたり、平成 28 年から継続して新しい研修生に指導を行っている。	十全総合病院看護師
野村美千江 入野了士	全国保健師教育機関協議会	平成 28 年第 31 回度全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会について、企画・運営・資料冊子化を行った。	全国で保健師教育に携わる教員等

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
野村美千江 田中美延里 入野了士	全国保健師教育機関協議会 四国地区	四国地区で保健師教育に携わる教員を対象として、四国内の先駆的な取り組みについての講話と意見交換によって、教育や研究の発展に資することを目的として教員研修会を今年度初めて企画・運営した。次年度以降は、四国公衆衛生学会開催地の会員校が幹事校として継続開催される予定である。	四国で保健師教育に携わる教員等
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県保健福祉部	県および市町に所属する行政保健師の人材育成に関する研修の課題抽出と企画・運営を支援するとともに、今後に向けて研修の体系化への支援を行った。	医療対策課地域看護係
窪田静	愛媛県看護協会訪問看護 step 1 受講者グループ	愛媛県看護協会訪問看護 step1 講義終了後、福祉用具活用看護技術演習の実施をサポート。演習を実施した。	愛媛県看護協会訪問看護 step1 受講者
窪田静	大洲市役所	福祉用具リーダー養成講座の企画と継続開催、修了者による自主的な勉強会の継続と発展について助言し、参加した。	地域包括支援センター職員
奥田美恵	愛媛県保健福祉部	平成 28 年度地域包括ケアシステム人材育成研修会について、西予市において 5 回の研修支援を行った。	南予地域保健福祉医療職者
中平洋子	日本精神科看護技術協会愛媛県支部	愛媛県支部研修会の一環として行われる看護研究発表会に向け、看護研究に関する講演の内容、その後の研究の進め方（段階的な指導の必要性や査読のあり方等）について、教育担当者と共に検討した。次年度も継続予定。	県内看護師
豊田ゆかり	愛媛県地域保健研究集会	分科会企画「母子保健の未来を考える ～今、我々に求められているもの～の座長として、企画・進行を担当した。	保健師

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
小嶋理恵子	愛媛県看護協会助産師職能	新人助産師研修の企画および講師として、各期（妊娠期、分娩期、産褥期）における診断とケアについて、および自己の振り返りから自分の成長に気づく講義とリフレクションのファシリテーターを担当。	新人助産師
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
中越利佳	愛媛県看護連盟	愛媛県看護連盟会員研修会の企画、準備、運営に携わった。第1回目は平成28年6月25日、テーマは「看護過程 目からウロコの教え方&学び方」第2回目は平成28年11月26日、テーマは「看護アセスメントトレーニング - 限られた情報から5秒で言語化」を実施した。	看護師、助産師、看護学生
伊藤美香	(一社) 愛媛助産師会	愛媛県地域少子化対策強化事業の一環である研修会の企画・講師依頼・準備・運営に関わった。研修会は「周産期における母子支援-妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア-」のテーマで実施した。	保健師・助産師・看護師・臨床心理士など
島田美鈴	市立大洲病院	市立大洲病院の指導的立場にある看護職員に対して、看護研究指導の研修について相談を受け、研修内容の企画兼講師として研修を実施した。	市立大洲病院 看護師
松井美由紀	愛媛県保健福祉部管理局医療対策課	「愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業」の企画連絡構成員およびファシリテーターとして40日間研修にかかわり、事例発表会などにも参加し助言指導を行った。次年度は、四国がんセンター主催企画に変更されるが、研修のファシリテーターとして関わる予定である。	県内看護師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開」研修について企画運営の相談を受け、研修講師およびファシリテーターとして関わった。次年度も引き続き、企画も含めて相談役およびファシリテーターとして関わる予定である。	県立病院看護職員
宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
山岡源治	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班世話人として、2回の世話人会に参加し、四国血液検査研修会の企画立案における議論等を行った。研修会は第1回が徳島大学医学部、第2回が高知大学医学部において開催され、指導技師等を務めた。	四国地区の臨床検査技師
山岡源治	瀬戸内研修会 世話人会	第6回瀬戸内血液検査研究会の世話人代表の一人として、H26年8月の世話人会、その後はメール等により研修会の企画立案に関わった。H27年3月末に研修会が開催され、191名が参加し、当日は司会を務めた。	中国四国地区の臨床検査技師
米持英俊	大学コンソーシアム愛媛共同授業	共生について考えるー愛媛から見た生活のあり方ー人は地球上の生命体として外界の環境に適応し他の生命体と互いに共生・共存することで生態系を維持している。実際に個々の細胞は生存して他の細胞と共存・共生すべきか、死滅すべきかを細胞自身で決定する機構が組み込まれている。この機構に深くかかわっているのが細胞内小器官のミトコンドリアである。一説によれば、この細胞内小器官は人の細胞に進化の過程で取り込まれて共生関係に至ったという。得られた共生関係は人に何をもたらしたのか。疾患との関わりを中心に講義を実施した。	愛媛県の大学生
金澤知典	愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科教員	染色体異常で出生した児や、口唇口蓋裂のある児に対する母乳育児について、本学で研修会を開催した。京都の開業助産師の越山茂代氏が来校し、講演していただく予定であったが、受け持ち妊婦の状況で来校できなくなり、急遽インターネットを利用した遠隔研修会の開催となった。そのため、遠隔研修会の会場設営、機器設定等の専門的知識、技術を要することとなり、技術支援を行った。研修会は22名の参加があり、タイムリーな質疑応答により、参加者は満足した様子であった。	母性・助産分野で実習させてもらっている施設の助産師や看護師、本学助産学専攻科学生や卒業生
佐川輝高	砥部町	7月16日ひろた交流センターにて夏休み理科教室を開いた。内容立案、講師を行った。	一般

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
佐川輝高	伊予理科教室 実行委員会	夏休み中全5回の砥部町における理科教室を内容立案、助成金獲得、実行を行った。既に6年行っているが、来年度の助成金申請も既に行っている。	一般
佐川輝高	「青少年のための科学の祭典」、松山大会 実行委員会、 (財)日本科学 技術振興財 団・科学技術館	11月4～6日に行われた「青少年のための科学の祭典 松山大会」において内容立案、準備、講師を行った。	一般
佐川輝高	「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会 実行委員会、 (財)日本科学 技術振興財 団・科学技術館	11月11～12日に行われた「青少年のための科学の祭典 八幡浜大会」において内容立案、準備、講師を行った。	一般
	保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、 研修の支援合計数		28件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏 名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
野本百合子	えひめ男女共同参画推進大学等連絡協議会主宰による「女子大学生の働き方への意識調査」への協力	愛媛県内の大学及び関係団体が、主に女子学生への男女共同参画への意識を高めるために、女子学生の就職や社会生活、家庭生活など、働き方に関する意識について、質問紙調査を実施した。県内女子学生の就職に対する意識が明らかになった。	えひめ男女共同参画推進大学等連絡協議会（愛媛県内大学及び男女共同参画に関わる団体）	「ひめじょ就活カフェ～仕事も生活も～将来の生き方を考える～」において報告した。
岡田ルリ子 相原ひろみ	平成 28 年度「地域中核企業創出・支援事業」	広島県内の企業が作成した高精度で手の平サイズの超音波エコーを用いた医療機器事業に対し、看護領域での活用可能性について助言を行った。	広島県内の中核事業者 9 名	超音波エコーを用いた看護教育への取り組みを開始する予定
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の院内看護研究研修に参加した看護師 13 名	院内看護研究発表会および愛媛看護研究学会で発表
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	自治体に働く中堅期保健師の専門能力を育成する研修評価に関する研究	中堅期保健師研修(H25～27 年度)の受講者の専門能力育成を尺度を用いて評価するとともに、直属上司及び研修修了生へのインタビューで職場への影響を評価した。インタビュー内容、分析、抄録・ポスター作成について、共同的に進めた。	愛媛県医療対策課 愛媛県看護協会保健師職能委員会	学会及び論文発表、事業報告書

氏 名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
野村美千江 田中美延里 入野了士	住民と協働する力を養う公衆衛生看護学実習の評価と当該実習を契機とした実習受入自治体における地区活動の評価	「住民との協働」を目的とした公衆衛生看護学実習を卒業到達度を用いて評価した。また、当該実習を通して、受入自治体の地区活動にどのような影響があったか評価した。分析、抄録・ポスター作成について、共同的に進めた。	実習受入自治体保健師及び所管保健所保健師など約 10 名	学会発表
窪田 静	保健師助産師看護師等実習指導者講習会	在宅看護論実習指導案作成	愛媛県看護協会	保健師助産師看護師等実習指導者講習会での発表、報告書
	保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言数			6 件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った	月 1 回（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成28年4月から平成29年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成28年4月から平成29年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成28年4月から平成29年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
鳥居順子	専門職：保健所長	投稿論文の統計手法に関する質問を受けた	入野講師と共同（メール）
野本百合子	専門職：看護師（個人）	県内の病院に勤務する看護職者から、現在取り組んでいる研究に関する相談を受け、研究の方向性などへの助言を提供した。	メール
青木光子	専門職：県内看護職者	県内の病院に勤務する看護職者から、研究方法についての相談を受けた。	対面
野村美千江	薬剤会社：営業職	道路交通法改正に伴う高齢者の認知機能検査ならびに自動車運転の継続・中止の判断について、病院や診療所の医師が知っておくべきことや外来患者とその家族への対応について相談を受け、情報提供した。	来校
窪田静	県内の重度障害者	車いす seating、補装具作成のための評価、判定支援。コミュニケーション機器支援。	訪問
窪田静	県内の重度障害児	リフトと吊り具の選定を行った。	訪問
窪田静	重度重複障害を持つ医師	当事者として、コミュニケーション支援に伴う問題点を発表するための相談にあたり、リハビリテーション工学カンファレンス発表のためのスライド作成、旅行支援、発表支援（代読）を行った。	訪問・メール

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に係る抄録作成について助言を行った。	来校
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に係る抄録作成と査読結果に対する検討について助言を行った。	電話
入野了士	専門職：保健師	保健活動のまとめに関する研究発表について、抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言とポスター作成方法の技術的支援を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：医師	研究論文における統計的なまとめについて相談を受け、他の疫学専門家と論文内容の検討を行った上、助言を行った。	メール
豊田ゆかり	専門職：看護師	N I C U入院児の皮膚ケアに関する研究についての助言を実施した。	メール・直接対応
小嶋理恵子	外部大学 3 名 看護師 1 名 本学 3 年生 1 名	専攻科のカリキュラム・実習期間等の概要の説明を希望して来学された 5 名に関しては、必要内容を説明した。	直接対応
今村朋子	専門職：助産師	施設で取り組む助産師外来の新人教育用の自己学習教材作成にあたっての助言、資料の提供などを実施した。	メール 直接対応
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	成人 T 細胞性白血病細胞と正常に存在する制御性 T 細胞の免疫学的鑑別点について問い合わせがあり、文献を紹介すると共に、フローサイトメトリーの抗体パネルでキーマーカーとなる抗体に関する情報提供を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	平成 28 年度日本臨床衛生検査技師会中国四国地区医学検査学会の抄録・発表原稿について、助言を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	認定サイトメトリー技術者の認定試験について、問い合わせがあり、助言と過去問に関する情報提供を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (愛媛県の病院)	小児の末梢血塗抹標本に出現した異常細胞について相談があり、異常細胞に関する助言および情報提供を行った。	メール・訪問
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「ESBL 産生菌」に関して質問を受けて説明した。	面談

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「K P Cと CRE」に関して質問を受けて説明した。	面談
岡村 法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	神経伝導検査時に混入するアーチファクト対策について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
岡村 法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	脳波検査時に使用する電極の点検方法について相談を受け、助言を行った。	メール・来校
岡村 法宜	専門職：高等学校教諭 (県内の高等学校)	課外活動での理科実験に関する相談を受け、助言を行った。	メール
佐川輝高	砥部町総務課	砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラブ総会後、砥部町の地質と自然災害との関連性について質問を受けて情報の提供を行った。	面談
	保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の 相談対応合計数		29 件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	・愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子・青木光子・岡田ルリ子・徳永なみじ・相原ひろみ・谷本淳子・森敬子	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員）	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	事務局の担当・学習会のための会場確保・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子（総括・企画・運営） 徳永なみじ・相原ひろみ（企画・運営） 岡田ルリ子・青木光子・谷本淳子・森敬子（運営）	愛媛県看護教員 継続教育研修 （愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員）	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった。	研修会の企画立案・外部講師との連絡・調整 ・研修会でのファシリテーター・司会・会場の調整・提供
野村美千江	愛媛県主任ケアマネジャー3期生勉強会	参加した多くのケアマネや事業所では高齢者の安全な運転を支えるために様々な工夫をしていることが明らかとなった。今後、大学ホームページ等で更なる情報発信に努めることを要請された。	公開シンポジウム「高齢者の安全な運転を支えるために～事例を元に考える」でコーディネーターを務めた。

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約 30 名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会で、15 年目を迎えた。本学での隔月開催により、平成 28 年度は、「情報の可視化」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向けて実践し、6 回の学習会で報告・共有し、討論を行った。グループワークを意図的に取り入れ、幅広い世代や職業分野のメンバーが意見交換ができるように、各回の企画に相談・助言を行った。	学習会内容の企画運営の助言、会場確保
豊田ゆかり	NPO 法人とベ子育て支援団体 ぽっかぽか	砥部町 子育て支援ネットワーク会議参加及び NPO 法人ぽっかぽか活動を支援した。	地域交流センター長として子育て会議の委員
小嶋理恵子・今村朋子・井上明子	継続事例報告論文までの道のり	専攻科卒業生を教育協力者として招き、継続事例報告に向けた準備・まとめ方・プレゼンテーションの実際について体験できる場を設けた。その後、卒業生が在学生の悩みの相談をするなど関係性が形成された	開催責任者として企画・運営
小嶋理恵子・井上明子・今村朋子	大学と臨床の母乳育児合同学習会	今年度は、口唇口蓋裂、ダウン症児の母乳育児学習会を企画・開催し、県内から 20 名、県外から 3 名の出席者が集まった。	開催責任者として企画・運営
枝川千鶴子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016～子どものいのちと体を守るお仕事体験	理事として企画・運営

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中越利佳	NPO エンブリオ愛媛 いのちの懇談会愛媛	円ブリオ基金（1円募金で新しい家族の誕生を支援する）事業の運営、相談、啓発講演会の企画、準備、運営	理事として企画・運営
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 お産の自主グループ	・目的:出産に携わる県内の助産師が日頃のケアの中で悩んでいる内容を抽出するとともに、関連する最新の情報提供を行い、皆で援助の改善策を検討する。・活動内容:年1回の学習会の開催	自主グループ責任者の一人として、学習会の企画・運営、講師として関わった。
井上明子・小嶋理恵子	大学と臨床・専攻科学生 合同の学習会	父親支援について: 虐待・DV加害者への脱暴力支援活動の経験から 立命館大学 中村正	開催責任者として企画・運営
井上明子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
井上明子	NPO 子育て・発達支援 ネットワークはぐくみ	香川県観音寺市プレパパ&プレママ大学～赤ちゃんがいる生活のイメージ講座～を NPO 子育て・発達支援ネットワークはぐくみが依頼を受け実施。	NPO 法人代表と共に企画
伊藤美香	(一社)愛媛助産師会	(公社)日本助産師会と連携を取りながら、愛媛助産師会立まつやま助産院に事務局を置き、県内全域で活動をしている助産師団体。	理事として企画・運営
伊藤美香	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
山岡源治	専門職:臨床検査技師(香川県の病院)	成人 T 細胞性白血病細胞と正常に存在する制御性 T 細胞の免疫学的鑑別点について問い合わせがあり、文献を紹介すると共に、フローサイトメトリーの抗体パネルでキーマーカーとなる抗体に関する情報提供を行った。	メール

氏 名	支援した会の名称と構成 メンバー	支援した会や団体の特性（目的、 活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香 川県の病院）	平成 28 年度日本臨床衛生検査技 師会中国四国地区医学検査学会 の抄録・発表原稿について、助言 を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香 川県の病院）	認定サイトメトリー技術者の認 定試験について、問い合わせがあ り、助言と過去問に関する情報提 供を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師（愛 媛県の病院）	小児の末梢血塗抹標本に出現し た異常細胞について相談があり、 異常細胞に関する助言および情 報提供を行った。	メール・訪問
佐川輝高	砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラ ブ	砥部町における災害時に砥部町 等行政と連携し、アマチュア無線 を利用して被害情報収集、復旧支 援に参画する。総会を 1 回、研修 会を 2 回、親睦会を 1 回行った。	賛助会員として活動に 参加、助言
	患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数		21 件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動 編集委員会委員として論文査読委員の選定、結果判定、査読システムの整備等 災害を受けた看護学生の修学継続や会員の研究継続支援	理事 編集委員・査読委員 大規模災害支援事業委員会委員長
中西純子	日本看護研究学会 中国・四国地方会	地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進（学術セミナー）、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	副会長 30周年記念誌編集委員長
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	代議員
中西純子	日本看護診断学会	看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	代議員 学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	愛媛県看護部長・教務責任者協議会	県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとともに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。 年1回の総会および年2回の研修会開催	理事・監事
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	平成 28 年度 介護職員等によるたんの吸引等のための 研修実施委員会（特定の者及び不特定の者）	研修の企画、運営	検討委員
中西純子	看護職員確保・県内定着 推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成 28 年より設置された。	協議会委員
中西純子	高知県立大学 看護研究倫理 審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員
中西純子	高知女子大学 看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年 1 件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	第 31 回日本 がん看護学会 企画委員会	学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員
草薙康城	愛媛県産婦人 科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（学術、がん対策担当）、編集委員
草薙康城	日本妊娠高血 圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医 療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人 科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	松山圏域活性化戦略会議	松山圏域における将来へのビジョンを作成する。	専門委員
草薙康城	愛媛県医師会医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会加わる。	支援医
草薙康城	順風会	がん検診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における県委員会委員	委員
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の県委員会委員	委員
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	西予市における地域包括ケアシステム構築を推進するために発足する支援部会	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会委員	都市計画法第 78 条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う	委員
鳥居順子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及等の事業の発展を図り、以て公衆衛生の増進に寄与するとともに、四国四県の関係機関の有機的連携を図ることを目的とする学会	監事
内藤真帆	日本言語学会	言語学の発展を図り、広く知識の交流に努める。主な事業は、学術集会の開催、学会誌の発行、国際的な研究協力の推進。	事務局委員
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的として活動している。主な活動は、月 1 回の定例会と年 1 回の学術集会の開催、学会誌の発行等である。	理事長 第 26 回学術集会企画・実行委員
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年 1 回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催しており、その中で、教育講演「実践に活かすための看護研究」を実施した。	教育担当理事 第 36 回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	新人職員研修推進協議会 (愛媛県看護協会)	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	日本看護学教育学会	看護学教育の向上を図り、看護学の発展に寄与することを目的とし、看護学教育を行っている大学、短期大学、養成所、高等学校など多様な看護基礎教育機関に所属している教員や大学院教育に従事している教員や看護実践家などが活動している。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	査読委員
野本百合子	千葉看護学会	看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進するための組織として設立された。現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
岡田ルリ子	社会福祉法人「南風会」	精神障害者の支援活動 年間活動計画の立案と支援 監査 等	評議員
徳永なみじ	看護生理学研究会 (看護生理学領域の研究者)	看護生理学研究を手掛ける看護学研究者相互の研究交流を図り、看護学の、特に生理学的研究水準の向上に貢献するとともに、広く学術の成果を教育と実践の名に還元することを目的としている。	企画運営委員
徳永なみじ	日本看護研究学会中国・四国地方会第30回学術集会	母体である日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会である。中国・四国地方会は、中国・四国地方における学術集会の開催、学術講演会の開催等の事業を通して、地域に根差した自由な発想を重視し、地域から発信する看護の革新に向けて重要な役割を果たしている。	企画・実行委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
徳永なみじ 相原ひろみ	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（書記）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	副会長
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の4領域により構成されるものと捉え、4領域の観点から地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	査読委員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	査読委員
野村美千江	大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会	文部科学省高等教育局医学教育課主催。学士課程における看護学教育のモデル・コア・カリキュラムを策定し、全国の看護系大学が平成31年4月にスタート、また、評価方法についても検討する。	委員
野村美千江	愛媛県後期高齢者医療広域連合	愛媛県後期高齢者医療広域連合（県下20市町が加入）が運営する独立保険制度による保険料、医療給付、保健事業の適切性について意見交換を行う。	懇話会委員
野村美千江	砥部町国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	会長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江 入野了士	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築するにあたり、生活支援・介護予防サービスについて地域の実態や課題に関する意見・提言の聴取。	委員
越智百枝	精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	愛媛県自殺対策計画策定委員会	平成 28 年 7 月から委員長の委嘱を受け、愛媛県自殺対策計画の策定を行った。	委員長
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民のの自殺対策の推進を目的とする。今年度計画の事業の実施評価を行った。	委員長
越智百枝	日本看護研究学会評議員	平成 26 年 4 月より評議員の委嘱を受け、評議員会に参加した。また、中国・四国地方会の運営委員会で監事の委嘱を受け、会計監査を行った。	評議員、地方会運営委員（監事）
越智百枝	日本看護研究学会査読員	平成 29 年 8 月に開催される日本看護研究学会査読委員として学会発表 5 件の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を 2 件行った。	査読委員
越智百枝	高知女子学会査読委員	平成 28 年度査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を 2 件行った。	査読委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする学会。	学会誌査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
窪田 静	愛媛県社会福祉協議会第3回えひめ福祉用具フェア実行委員会	愛媛県社協が主催し、県内の主要な医療福祉専門職職能団体等が後援する「えひめ福祉用具フェア」の企画運営の詳細を決定し、当日の運営を担った。	委員、作業部長
窪田 静	三輪書店作業療法ジャーナル	1年間に発行される雑誌12冊と特大号1冊の記事を論評し、企画を提案する。	編集同人
窪田 静	リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト 2016	一次選考（書類審査）、二次選考（展示と面接）において、一般部門、学生部門それぞれの応募作品について選考会にて審査を行う。二次選考に残った作品に対しては、選考委員で分担して論評を執筆する。	選考委員
窪田 静	公益財団法人テクノエイド協会福祉用具シリーズ住宅改造編小冊子作成委員会	福祉用具法指定法人である公益財団法人テクノエイド協会が紙媒体を無償配布する（ホームページでのダウンロードもできる）小冊子、福祉用具シリーズ「住宅改造編」を、他の執筆者と論議を重ねながら執筆した。同時に、福祉用具プランナーテキスト改訂作業も行った。	委員
窪田 静	西予市地域包括ケア人材育成事業 人材育成研修会実施ワーキング	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築に必要な介護専門職の育成にかかわる研修会の企画と講師、視聴覚教材の制作	WGメンバー、協力員
奥田 美恵	西予市地域包括ケア人材育成事業部会	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築に必要な介護専門職の育成にかかわる研修会の企画を行った。	委員
奥田 美恵	高知女子学会	看護の実践・教育・研究の発展に貢献する	査読委員
入野了士	愛媛県看護協会 保健師職能委員会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施等を行った。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
坂元勇太	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（書記）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあっている。	理事
豊田ゆかり	松前町国民健康保険運営協議会	松前町の国民健康保険予算・保険給付内容等に関して委員として協議に出席した。	委員（学識経験者）
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾患児童等地域支援協議会	協議会の委員長として議事進行・協議を行った。	委員長
豊田ゆかり	地域包括ケアシステム人材育成プログラム開発会議委員・人材育成部会委員長	2年目の活動であり、地域包括ケア人材育成に関わる会議に出席・会議の企画・進行・研修会企画・実施を担当した。	委員及び委員長
豊田ゆかり 枝川千鶴子 藤原紀世子	第15回日本小児がん看護学会学術集会	平成29年11月に松山で開催される学術集会の看護プログラム委員として、看護のメインテーマの検討、学術集会の概要及びプログラムの検討等を行った。	看護プログラム委員
小嶋理恵子	愛媛県看護協会・助産師職能	2017年度年間活動計画立案検討・2016年クロップミックス研修運営・ファシリテーターを担当	助産師職能
枝川千鶴子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
枝川千鶴子	リレーフォーライフ愛媛実行委員	リレーフォーライフ愛媛の実行委員として、企画運営に参加した。	実行委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中越利佳	一般社団法人 愛媛助産師会 広報委員会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行	広報委員
中越利佳	愛媛県看護連 盟教育支部	愛媛県看護連盟会員研修会の企画、準備、運営および県内看護教育機関の取りまとめ	役員
中越利佳	NPO エン ブリオ愛媛	いのちの教育講演会の企画、準備、運営に役員として携わった。	理事
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	愛媛助産師会の運営 ・年間活動計画の実施と次年度計画の立案を行った。	理事
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 広報委員会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理を担当した。 ホームページ作成、メール配信システムの整備を行った。	広報委員長
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動を行った。	東予地区役員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	県内1カ所の助産所機能評価を行った。	機能評価員
今村朋子	日本助産学会 第31回学術 集会実行委員	徳島で開催の学術集会の当日実行委員として、座長の役割や学会の運営に携わった。	実行委員
今村朋子	愛媛県立医療 技術短期大 学・愛媛県立 医療技術大 学・大学院同 窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（会計）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
井上明子	日本助産学会	助産学に関する研究の推進・知識の普及により助産学の発展を図り、我が国の母子保健の向上に寄与する。 主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行などを実施した。	学会誌査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
伊藤美香	(一社)愛媛助産師会	(公社)日本助産師会と連携を取りながら、愛媛助産師会立まつやま助産院に事務局を置き、県内全域で活動をしている助産師団体の活動を実施した。	副会長
島田美鈴	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会へエントリーした一般演題の査読を行った。	第31回日本がん看護学会学術集会査読委員
島田美鈴	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会の一般演題 口演発表「第50群 がんリハビリテーション、サバイバーシップ」の座長を行った	第31回日本がん看護学会学術集会座長
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価	委員
松井美由紀	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価	企画連絡会構成員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	副実行委員長
松井美由紀	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会学術集会の研究発表内容の査読	査読委員
宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員
西森旬恵	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（会計）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
江崎ひろみ	日本健康体力栄養学会	体力栄養の知識と技術の進歩・普及発展のために、体力と栄養の関係を研究・研修し、その成果を健康を目指した運動及び栄養の実践活動に応用し、国民の健康増進及び成人病の一次予防に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会四国支部の運営に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会、秋期大会の学術内容の企画に参画した。	コア・プログラム委員、プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行った。	学会誌査読委員
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動している。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立された。 中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員
玉内秀一	日本鉄鋼協会 (評価・分析・解析部会)	工学系と生物学系の連権研究としてバイオフィルム被覆によるスラグ新機能創出をテーマに研究部会の活動を推進するために人と人との交流の接点役として活動する。人を取り巻く環境や生活を営むにおいて問題となっている課題を改善する事を目的とし学術集会の開催、学会誌の発表を行う。	幹事
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	監事
北尾孝司	日本臨床検査医学会中国四国支部	臨床検査医学(臨床病理学)に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学(臨床病理学)の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与する	評議員
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野島一雄	日本臨床検査技師教育協議会	臨床検査技師の教育機関の資質向上を諮るため、情報交換、教育研究活動等を行い、臨床検査技師教育水準の向上と保健福祉に寄与することを目的とする。臨床検査に関する教育普及、調査研究、学術集会の開催、学会誌の発行、国内外における関係諸団体との交流等の事業を行う。	評議員
野島一雄	日本時間生物学会	時間生物学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
野島一雄	日本リハビリテーション医学会	第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会	座長
金澤知典	一般社団法人電気学会 非整備環境現場に駆動されたパターン認識技術の応用 協同研究委員会	パターン認識技術とその応用に関し、特に十分な条件整備ができない環境の現場において国内外で開発されている新しい技術や手法、人が関係する環境全般でのパターン認識の応用に必要な技術、さらに人間の視覚感性とパターン認識技術の応用について、調査・研究を行うことを目的とする。	委員
金澤知典	一般社団法人電気学会 知・技の伝承と複合現実型 実応用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの五感センシング、マイニング、モデリング、レンダリング、インタラクション、訓練・伝承法や、新たな活用法等といった、知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員
徳原康哲	香川県臨床検査技師会 一般検査研究班	一般検査業務に関する技術の向上や知識を深めるため、香川県内の研修会やセミナーの企画・開催	幹事
佐川輝高	任意団体 伊予理科教室実行委員会	砥部町にて夏休み理科教室を開催している。企画立案、内容立案、助成金獲得、講師を行っている。	代表
	行政や各種関係団体の理事・委員等の活動合計数		116 件

V 学生の地域交流 活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績

- (1) ボランティア登録数 個人登録 58 人、 団体登録 3 団体(平成 30 年 3 月現在)
- (2) 外部団体からのボランティア募集要請件数 14 件
- (3) ボランティア活動実績 6 件

学生ボランティア活動実績 (平成 29 年度)

	名称	主催	時期	場所	参加学生数	活動の内容
1	そうめん流し地域交流会	(株)ヨシケンコーポレーション	6 月 24 日 (土)	グループホームいしい	14 名	そうめん流しの手伝い
2	交通安全イベント 「人の輪」作戦	松山南警察署	7 月 20 日 (木)	J A えひめ 中央城南会館	4 名	旗やプラカードを手に通行車両のドライバーに交通安全の呼びかけ
3	子ども食堂 in TOBE	砥部町社会福祉協議会	8 月 21 日 (月) 8 月 30 日 (水)	砥部町社会福祉協議会	4 名	砥部町内の小中学生と午前中は夏休みの宿題、昼食、遊び・おやつ
4	リレー・フォー・ライフ (リレー参加・ボランティア)	RFL2017 えひめ実行委員会 (地域交流センター事業)	9 月 2 日～ 3 日 (土日)	城山公園	ボランティア 17 名 リレー 49 名 計 66 名	17 時間リレーウォークほか
5	リレー・フォー・ライフ	RFL2017 えひめ実行委員会	9 月 2 日～ 3 日 (土日)	城山公園	5 名	実行委員会のメンバーとして企画から参加
6	第 17 回全国障害者スポーツ大会	愛媛県	10 月 27 日～30 日 (金～月)	ニンジニアスタジアム	59 名	選手のサポート

ボランティア参加学生数（のべ） 152 名

＊なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボランティアもある。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書 76 ページに掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル 6 つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ大作戦について紹介する。

自治会主催 クリーンアップ大作戦

クリーンアップ作戦&球技大会は、たくさんの学生・教職員の皆様に参加していただき、校内の掃除を行いました。落ち葉の量がとても多く、集めるのは大変でしたが、皆様のご協力のおかげで見違えるほど綺麗になりました。

今年度昼食はバイキング形式の豪華なケータリングを参加者全員でおいしく楽しくいただきました。球技大会は、先輩後輩関係なくの真剣勝負！！バレーボールで体を動かし汗を流しました。準備は大変でしたが、参加した皆さんからの「良かった」の声は自治会一同とても嬉しかったです。



STS サークル

副部長 矢野 詩歩

私たちSTSサークルは愛媛県内でボランティアを行うサークルとして活動をしています。学生それぞれが松山市社会福祉協議会からの「おせったい通信」や、大学からのボランティア活動の募集、先生からの依頼、地域のボランティアからの依頼などから、自分たちが参加したいボランティアを探し、自分たちのペースに合わせ参加を行っています。

平成29年度の活動内容としては以下の通りです。

- ・オープンキャンパスでの学生相談
- ・グループホームいしいでの「そうめん流し地域交流会」の参加
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ での運営補助
- ・第12回 愛媛県障害者スポーツ大会の観戦
- ・第10回 なかよし村まつりの参加

様々なボランティア活動に参加し、たくさんの方と出会い、人と関わることの楽しさを知りました。将来医療に携わる私たちにとってコミュニケーションスキルは必要不可欠です。今後もボランティア活動を通し、多くの人と関わることで自らのコミュニケーションのスキルアップを図っていきたいと思います。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ

手話サークル Sign

部長 山根 早耶香

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に、講師の方から手話を教わっています。数年後、医療従事者として患者さんと関わる際や、普段生活をしていて出会う、手話利用者の方と会話ができるようになることを目標として、日常生活で使える手話から簡単な医療手話まで、幅広くご指導していただき勉強しています。今年度は特に、オリジナル資料を作り、実際に会話をする手話に取り組みました。来年度もまた、楽しみながら、実践力を鍛えられるような活動にしていきたいと考えています。

5 月に、昨年に引き続き、指定障害福祉サービス事業所 共同作業所「なかよし村」で行われる「なかよし村祭り」で、音楽に合わせて手話を行う、手話コーラスを披露する機会をいただきました。去年より良いものを、そして、なかよし村祭りに参加して下さった人と一緒に楽しめることを目標に、なかよし村祭り当日は、桐谷健太さんの「海の声」のサビを見てください方々と一緒に練習してから、実際に音に合わせて手話コーラスを行いました。まだまだ伝え方に改善の余地は大いにありますが、皆さんが一生懸命手話を真似してくださったり、歌ってくださったり、温かい声掛けをしてくださり本当に嬉しかったです。

学園祭では、寒く、風が強い中でも、多くの方々に見ていただき、お褒めの言葉をたくさんいただきました。頑張った達成感と感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

手話コーラスを通して地域の方々と関わることで、様々な人との交流や社会勉強の機会を得ることができました。さらに、たくさんの温かく優しい気持ちと触れ合うことができました。今後も改善をしながら、手話コーラスを通して、地域の人たちと関わる機会を増やして行きたいです。週 1 回 1 時間と限られた時間で活動する私たちの手話能力は、微力なものに過ぎませんが、地域の方々に貢献できるように、これからも部員一同邁進してまいります。



Peer サークル

部長 越智 彩

Peer サークルは、愛媛県内の中学校、高校、大学等で活動を行っています。Peer には「仲間」という意味があり、同世代の人々に、私たちと同じ目線・同じ立場で「性」について考え、自分自身と向き合ってもらう時間を共有します。また、「自分自身のことを思いやり大切にすること、同時に相手のことも大切にすること」の重要性を実感してもらえるようにしています。

「性」という言葉を聞くと、「恥ずかしい・人前では話しづらい」というマイナスなイメージがあることが多く、抵抗を感じる人もいます。しかし、私たちは活動を通して、「性」とは誰にとっても大切なものであり、自分自身からは切り離せないものであると感じています。

また、「性」に関する悩みを持っている人が多いのも事実です。私たちはその悩みを友達のように相談できる相手でありたいと思っています。同世代だからこそ打ち明けられることもあるのではないのでしょうか。それこそが Peer サークルの良さでもあります。活動させていただく中で、私たちが学ばせていただくことも多く、対象の生徒や学生と一緒に成長できる場でもあります。

私たちは、先輩たちから受け継いできた Peer サークルに誇りを持って活動しています。より多くの方々にこの活動を知っていただき、活動の幅を広げることができるようにこれからも精進していきます。



ピアエデュケーション
(高校生対象)



ピアエデュケーション (中校生対象)

医技タット

部長 福山 詩織、大西 裕香

私たち医技タットは、平成 26 年度設立の災害医療ボランティアサークルです。「東日本大震災に学び、南海地震に備える」という理念のもと、日々活動しています。昨年度に引き続き東北派遣を行い、4 日間の日程で宮城県を訪れ、大川小学校で遺族会の方からお話を伺ったり、3.11 メモリアル交流会や震災遺構になった荒浜小学校へ行ったりしたことで多くのものを学ぶことができました。また、実践的な技術を身に付け、実際の災害医療の現場でも生かすことができるように、BLS や防災士などの資格取得にも積極的に取り組んできました。今年度は、地域に密着した活動を行うことをテーマにしてきたため、親子防災教室ボランティアや砥部町防災訓練、子供防災合宿にも参加し、貴重な体験をすることができました。

今後の目標は、ボランティアや資格取得を継続しながら、地域の方や他大学の学生や先生方と関わる機会を今までよりも多く作ることです。そこで、活動を通して学んだことを南海トラフ地震に備えるために、身に付けた情報を外部に発信したり、啓発活動を行ったりして、地域に根ざした活動を行っていきたいと考えています。



フラサークル ティアレ

部長 林 あかね

私たちフラダンスサークルティアレは、毎週月曜日に活動を行っています。月に1度講師としてフラダンスの先生に来ていただき、レッスンを受けています。外部の活動としては、毎年学祭でフラダンスの披露をしている他、介護施設等の方から声をかけていただいたときに、施設の方でフラダンスを披露させていただき、利用者の方々との交流を行っています。

平成28年度には、4月15日にデイサービス民家いろは『はなれ』にてフラダンスの披露、7月2日に麻生児童館でフラダンスの披露及び利用者の方々との交流、9月18日に高尾田集会所での敬老会にてフラダンスの披露をさせていただきました。

全国の大学にフラダンスサークルは数多く存在しますが、地域との関わりの強い医療技術大学である本学では、介護施設、老人ホーム、デイサービス、児童館や集会所など地域住民の方々と交流できる場を中心に活動しています。施設でフラダンスを披露する際には、観覧者の方とフラダンスを一緒に踊るようにしています。フラダンスを一緒に踊ることで、より深く交流することができるだけでなく、観覧者の方々も実際に踊りに参加することができ、毎回「楽しかった」「また来てほしい」等のうれしい言葉を頂いています。

私たちのフラダンスはまだまだ未熟ではありますが、先生のレッスンを受け、踊りの技術を上達させていき、地域の方々の笑顔をたくさん生むことができるようにこれからも精進してまいります。

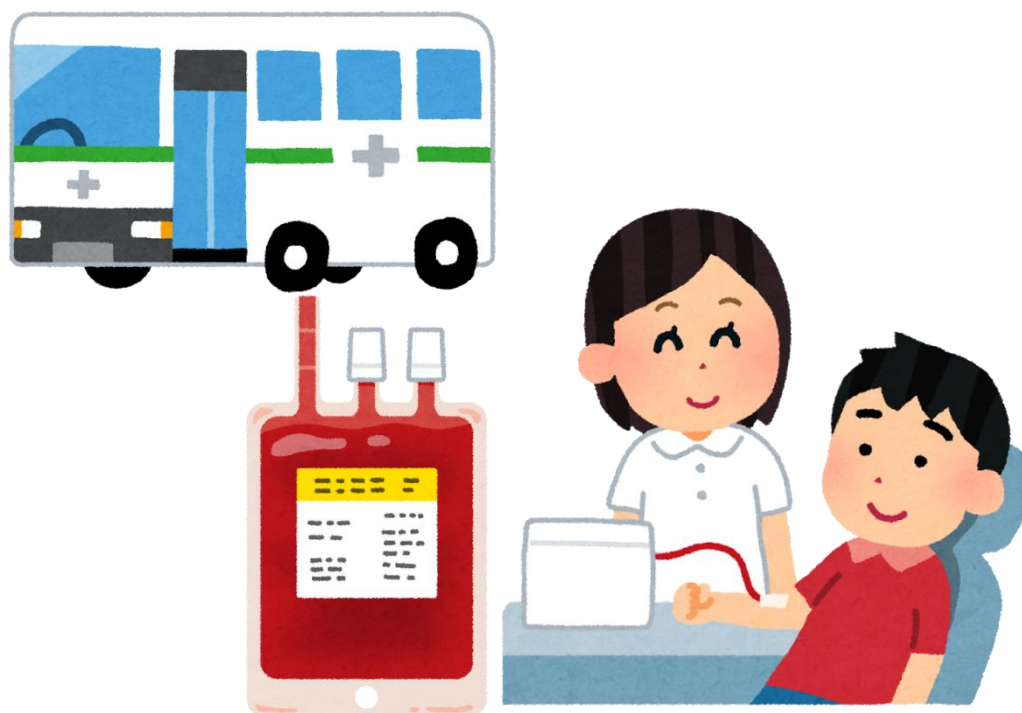


学生赤十字奉仕団

部長 村上美帆

私たちは月に一回の定例会に加え、献血推進活動や募金活動を中心にボランティアを行っています。献血推進活動では、大学や献血ルームで献血の呼びかけを行っています。また、防災活動、東日本大震災で被災された方がたへの支援、HIV/エイズ予防啓発活動などに取り組んでいます。愛媛県内の学生や、他県の学生たちと和気あいあいと活動しています。愛媛県は中四国ブロックに属しており、他県で行っている活動を研究し、一人ではできないことも、同じ目的を持った人が集まることで少しでも多くの方に献血していただけるよう人々の関心を高めるために活動しています。

学生赤十字奉仕団に参加し、活動することはボランティアの活動意義について深く考えるきっかけとなりました。自分たちが活動を行うことで採血者数が増え、人々の笑顔が見えることで達成感を感じることもできました。また、仲間と上手く連携することの大切さを学ぶことができました。医療従事者を目指す私たちにとって、チーム医療において仕事を分担し、1つのプロジェクトを進めるといったことから得た仲間との協力の仕方を活かし、同僚と協調して物事を円滑に進められると思います。ほかにもボランティアをすることで様々なことを学ぶことができます。採血について学ぶことも多く、自分は採血できないから関係ないではなく、採血にできなくても呼び掛けることは誰にだってできます。この学生赤十字奉仕団での活動が少しでも学生たちのボランティアをするきっかけになることを願っています。



VI 地域への施設開放 状況

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～9月 10：00～11：30

10月～3月 11：00～12：30

開催回数：年間 39 回

利用者：砥部町住民

利用人数：30 人程度/回、延べ人数 1,329 人

<活動の様子>



VII 參考資料

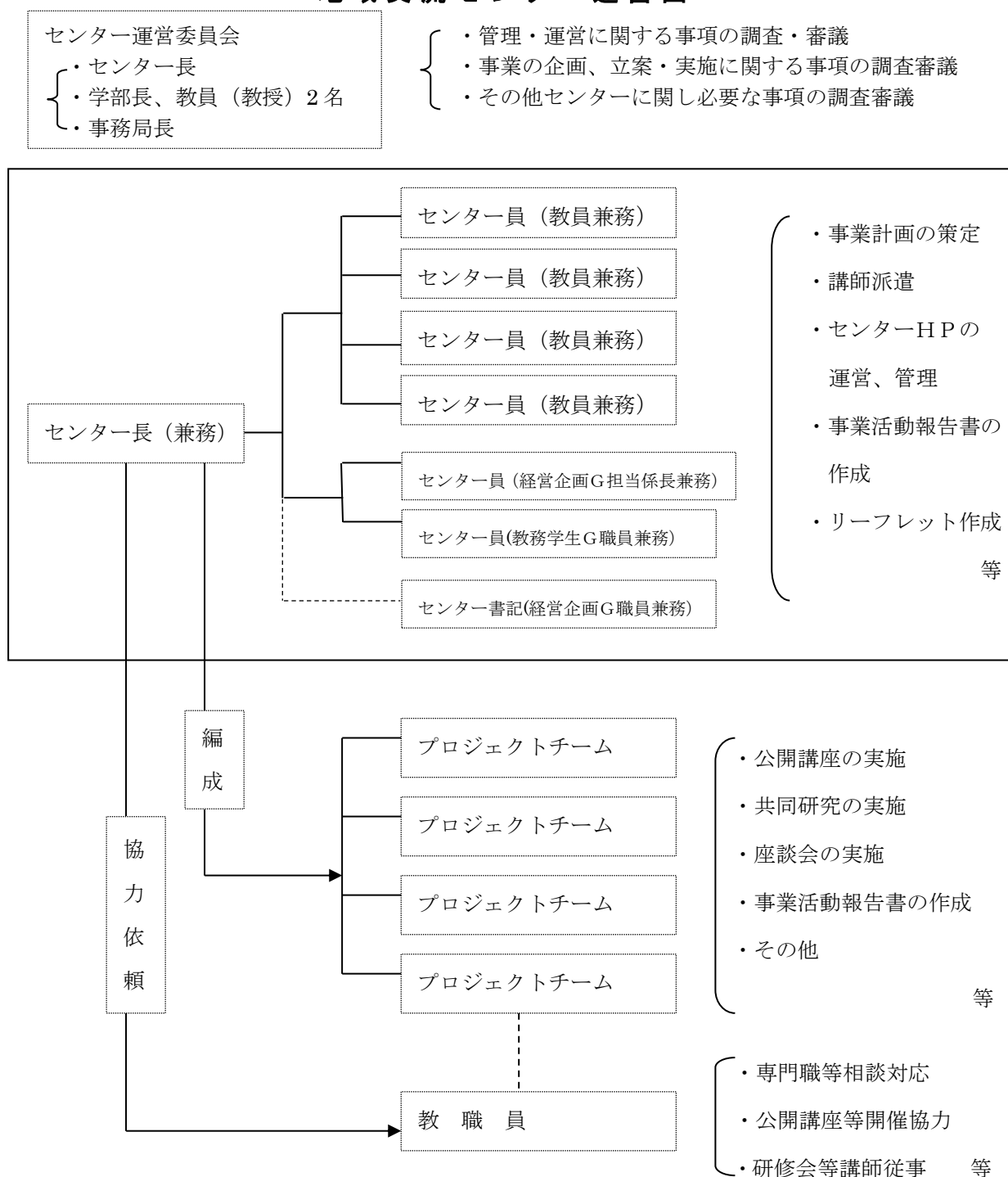
VII 参考資料

地域交流センターの組織（平成 30 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 6 名（教員 4 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地 域 交 流 セ ン タ ー 運 営 図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

（任期）

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（運営）

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011 年 6 月（改正 2014 年 12 月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

